

第15回 愛は子宮を救う

知ってほしい

子宮頸がん

ワクチンと検診で守ろう、
自分のからだ新しい検診法
の普及に期待金沢医科大学産婦人科嘱託教授・
金沢大学医学部客員教授
笹川 寿之さん

政府がHPVワクチンの勧奨を再開して以降、接種率は半数近くまで上がっており、しばらくこの状態が続くと予測されています。こうした状況下で今、私が心配しているのは、ワクチンの接種が一時中断していたところに10代を過ぎた「未接種世代」をはじめ、ワクチンを受けなかった女性が将来、被る不利益です。彼女たちに対して、早急に「HPV検診」を実施すべきと考えています。日本の子宮

頸がん検診は細胞診が主体ですが、採取した細胞のHPV感染の有無を調べるのが「HPV検診」。この検診の運用システムが整えば、検診の間隔は5年になり、女性には生涯に受ける検査の回数が減り、実施する行政側は経費の削減ができるといったメリットがあります。約15年前からこの検査を行っている石川県金沢市では、開始10年後ぐらいから急に子宮頸がんの発生率が低下しています。

子宮頸がんを予防する
「HPVワクチン」小児科医師
増田 英子さん

HPVワクチンはヒトパピローマウイルスの感染を防ぎ、将来の子宮頸がんを予防します。16歳までに接種すると9割防ぐというデータもあります。小学6年生から高校1年生相当年齢までの女性は定期接種で無料、高校2年生から28歳までの女性も、来年3月末までキャッチアップ接種として無料です。男性は有料ですが、将来無料になるかもしれません。接種時の副反応として、注射部位の痛み

や腫れ、赤みのほか、急な症状として痛みや恐れから起こる失神、アレルギー反応のアナフィラキシーなどがあります。これらは他のワクチンでもみられるものです。また頻度は低いものの、接種後に広範囲の痛みが長く続く方がいます。検査をしても異常がない場合が多く、機能的な身体症状と呼ばれています。各県に相談医療機関が整備されていますので、心配な方は受診なさってください。

初期は無症状—
検診が重要産婦人科医師
山本 かおりさん

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）が原因でできるがんです。HPVは性的な接触によって感染し、発がん性のある（ハイリスク）HPVに長期にわたって感染し続けると、がんになっていきます。性交渉の経験があれば誰でもリスクがあり、若くても例外ではなく、子宮頸がんは30代後半の女性に最も多いがんです。年間およそ1万人の方がかかり、3000人近くの方が亡くなっています。子宮頸がんは初期には、症状がないため、早期発見のためには、

検診が重要となります。現在は、子宮頸部から細胞をとって異常がないかを見る検査が主流ですが、厚生労働省はハイリスクのウイルスに感染していないかを調べるHPV検診を2024年4月から一部の自治体で開始しています。この検査は細胞をとる検査より精度が高く、ハイリスクのHPVがいなければ、5年毎の検診で良いとしています。長野県では一部の自治体、一部の病院で受けることができます。

ワクチン接種、
まずは「知る」こと御代田北小学校校長
鈴木 亜希子さん

子宮頸がんのワクチン接種について、学校で親御さんや同僚の先生方から聞かれることがあります。正解はないと私は思います。打てばいいということでもないし、打たなくて大丈夫ということでもない。ただ、その体で生きていくのは子どもたち自身ですから、どうするかを自らの意志で選べるように、親御さんのお手伝いできることが大切だと感じます。そのために、まずは子宮頸がんやワクチンについて、お子さんと一緒に知るといった機会をもっていただきたいと思います。

若い世代への
啓発に注力子宮頸がん予防啓発プロジェクト
“愛は子宮を救う”実行委員長
信州ウィメンズヘルスケア協会代表理事
長野県細胞検査士会
中村 恵美子さん

私たち細胞検査士は、検診などで採取された細胞の中に、がんになりかけている細胞や、がんになってしまっている細胞がないか、見つける仕事をしています。20代の若い方に子宮頸がん細胞が、時には10代の方から子宮頸がんを疑うような細胞が見つかることもあります。子宮頸がんは20代から30代の若い人に多く見つかること、その多くをワクチンで防ぐこと、また早期の子宮頸がんは自覚症状がないため、検診を受けることが大切であることなど、正しい情報を若い世代に伝えたい。その思いから、啓発活動を続けています。自分の体と自分の未来を大切にしたいと強く願っています。

子宮頸がんの
治療を経験して自覚症状、
半年放置でがんは進行飯田短期大学教授
鈴木 真由美さん

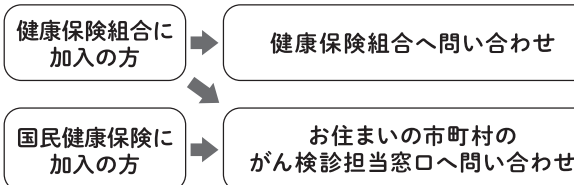
私は、20代後半で受けた乳がん検診がきっかけになりました。対応してくださった保健師さんが、年齢的に心配だからと子宮頸がん検診をすすめてくれて、受け始めました。初回は異常なしでしたが、2回目の検診で、がんになる一歩手前の状態が見つかったんです。当時32歳。まさかこの年で、と予想外の検診結果にショックでした。でも検診のおかげで、ごく初期で発見できたので、患部を円錐型に切り取る手術だけで済み、子宮も温存できました。入院は3泊4日。術後は2週間安静にただで、演奏の現場に復帰できました。経過を見るため定期的に通院して検査を繰り返すのは勇気もいるし、気が重く感じますが、再発もなく元気に過しています。

私は不正出血がありました。受診が必要だとは思いましたが、婦人科は心と身体の準備が必要なんです。半年間放置をしたのち近くのクリニックを受診したところ、すぐに大きな病院を紹介されて、子宮頸がんの進行だと告知を受けました。子宮と卵巣、卵管などを、ごっそり摘出する手術を受けただけでなく、リンパ節に転移があるといわれたときには、奈落の底に突き落とされた気分でした。最初の入院に1カ月。その後は月1回、1週間ほど入院加療をする治療が約半年続きました。抗がん剤治療がとにかくつらかった。日に日に元気がなくなるなか、幼い娘たちを残して死ぬことが何よりも怖く、不安でなりません。だからこそ今は死ねない、とも思いました。自分以外の誰かのためにも、自分の身体を自分で守る。そんな行動をしてほしいと思います。

長野県HPVワクチン接種普及啓発事業補助金活用事業

20歳を過ぎたら2年に1回の検診を

子宮頸がん検診を受けるには？



「愛は子宮を救う」ホームページ
www.love49nagano.com/で
県内の検診実施医療機関一覧、
Web冊子をご覧いただけます。

「愛は子宮を救う」のホームページで
検診やHPVワクチンのことがわかる動画をご覧ください。



check!

- 主 催／子宮頸がん予防啓発プロジェクト「愛は子宮を救う」実行委員会（構成団体：長野県細胞検査士会・信州ウィメンズヘルスケア協会）
- 共 催／信濃毎日新聞社・長野県臨床細胞学会・信州産婦人科連合会・長野県小児科医会・長野市産婦人科医会
- 後 援／厚生労働省・長野県・長野県教育委員会・長野市・長野市教育委員会・千曲市・松本市・上田市・小諸市・佐久市・諏訪市・伊那市・大町市・安曇野市・飯田市・（一社）長野県医師会・（一社）長野市医師会・（一社）更級医師会・（一社）松本市医師会・（一社）長野県臨床検査技師会・（公社）長野県看護協会・（一社）長野県助産師会・（一社）長野市薬剤師会・（公財）長野県健康づくり事業団・（一財）全日本労働福祉協会長野県支部・日本赤十字社長野県支部・信州大学医学部附属病院・長野赤十字病院・NHK長野放送局・SBC信越放送・NBS長野放送・TSBテレビ信州・abn長野朝日放送・FM長野
- VIPスポンサー／長野県厚生農業協同組合連合会
- プラチナスポンサー／OKAレディースクリニック・オリオン機械株式会社・寿製薬株式会社・長野リネンサプライ（株）・菜の花マタニティクリニック／菜の花みのわクリニック／ほりうちレディースクリニック／みずすレディースクリニック
- 運 営 協 力／（株）共和コーポレーション